

大波に揺れるEU、英国離脱・蘭仏選挙

◆60年の節目の年は、英国離脱にとどまらずEUにとって試練の年

2017年3月25日、欧州連合（EU）の前身である欧州経済共同体（EEC）の創設を定めた「ローマ条約」の締結60周年の記念行事に臨むため、英国を除く加盟27カ国の首脳がローマに集まった。EUの今後10年間のEUの目標を示した「ローマ・アジェンダ」を含む「ローマ宣言」が採択され、改めて結束が謳われたが、この宣言では、加盟国一斉ではなく、一部の加盟国だけの「先行統合」を容認する「統合速度の多様化」の方針も打ち出された。防衛や経済分野などが想定される。今後は、加盟国内の統合の格差が明確になる可能性があり、二級国扱いを懸念する一部の国で異論もあった内容で、これはEUにとり大きな転換点だ。

◆英国が正式にEU離脱を通告、課題は続出

その4日後の3月29日、英国はEUからの離脱を正式にEU側に通告した。EU側との原則2年間の交渉を経て、19年3月末にも、前身の欧州共同体（EC）時代を含め40年以上の加盟に終止符が打たれる。実質的な交渉は、5月末から始まるとみられるが、交渉ではまず、英国に居住するEU市民とEU内に居住する英国人の権利の保障、英国が負担を約束していた7兆円に及ぶEU予算への支払い額などが焦点となる見通しで、協議は難航するとみられる。EU側は、次なる離脱国を生み出さないためにも、英国が期待する離脱協議と自由貿易協定などの将来の関係性の並行協議は否定、厳しい態度で英国に臨むと思われる。

英国の離脱は、スコットランドの独立やアイルランド問題など、英連邦内の不安定化も

EUの主な歴史と英国との関係

1951年	欧州石炭鉄鋼共同体（ECSC）設立条約（パリ条約）締結 （6カ国：仏、西独、イタリア、ベルギー、オランダ、ルクセンブルク）
57年	ECSC6カ国、欧州経済共同体（EEC）設立条約（ローマ条約）締結
67年	欧州共同体（EC）発足
73年	欧州共同体（EC）が9カ国に拡大（英、EC加盟）
75年	英の国民投票で「EC残留」67%
84年	英サッチャー首相、EC予算分担金の減額
93年	マーストリヒト条約により欧州連合（EU）創設
95年	国境での出入国審査廃止した「シェンゲン圏」誕生（英は不参加）
99年	欧州単一通貨ユーロ導入（英は不採用）
2004年	EU、「東方拡大」で25カ国に
12年	EU各国、債務危機対策の新財政協定署名（英は不参加）
13年	クロアチアの加盟で28カ国に 英キャメロン首相、EU離脱・残留問う国民投票実施を表明
16年	英国民投票、「EU離脱」が52%と過半数超える
17年	ローマ条約調印60周年（3月25日） 英、EU離脱通告（3月29日）

各種資料よりARC作成

招く。北アイルランドは英国の一部だが、南のアイルランド共和国は別の国だ。英国がEUに加盟している間は、どちらも同じEU域内にあるため、70～80年代に起こったプロテスタント系とカトリック系住民の紛争やテロ、アイルランド統一問題は鎮静化されていたが、離脱を契機に再燃する可能性もある。メイ首相は厳しい舵取りを迫られる。

◆選挙が続く欧州、オランダでは極右は伸長するも第二党、与党労働党は惨敗

17年3月のオランダの選挙では、反EUと反移民を掲げる極右政党の躍進が予想されていたが、思ったほどは票が伸びずに第二党止まりとなった。ルッテ首相率いる自由民主国民党（VVD）が最多議席を獲得したが、与党側の勝利とは言えない。VVDが第一党を死守できたのは、選挙直前に、国内のトルコ住民向けの演説に訪れたトルコの閣僚の入国を禁止するという、極右のお株を奪うような措置で、極右に流れる票を食い止めたためと分析されている。それでもVVDは議席を減らし、VVDと連立を組む労働党は、議席数が4分の1へと惨敗。EUのユーロ議長で労働党出身のダイセルブルム氏の進退問題にも波及した。

◆フランス大統領選は、異例の二大政党以外の候補者の戦いか

フランスの大統領選は、4月の第1回目の投票を経て、5月に決選投票が行われる見通しだ。有力候補だった共和党のフィヨン元首相はスキャンダルで、社会党のアモン前教育相は党内不人気で支持率が低迷し、長年の二大政党の戦いではなく、今回は極右政党「国民戦線」のルペン党首と、右でも左でもないことを掲げるマクロン前経済相との争いになる見込みで、異例の事態だ。ルペン氏は、国内の産業空洞化が進み失業率が高止まりする中、EUが進める自由貿易を批判し、反イスラムなど、米トランプ大統領と類似の主張を掲げ、社会党の基盤の労働者層にも支持を広げる。EU離脱の国民投票も辞さない構えだ。このため、反ルペン勢力は、親EUのマクロン氏支持に回るという構図だ。もし、フランスがEUを離脱する事態となると、ユーロも導入しなかった英国離脱よりその衝撃は大きい。歴史的経緯からみてもフランスはEU（ECSC）設立時の原加盟国であり、フランスとドイツの両輪で成り立ってきた組織だからだ。EU崩壊の引き金を引きかねない。9月にはドイツの総選挙も控える。フランスの選挙結果は要注目だ。【赤山英子】